



立場の弱い人々のために働きたい。 国際社会に役立つ人間や日中友好の 架け橋になれるように頑張ります。

プロフィール

1971年中国黒龍省ハルビン市生まれ。祖母が中国帰国者だった関係で1986年来日。大阪で暮らす。ISS 日中通訳コース、北京第二外国语学院研修課程修了。大阪外国語大学国際文化学科卒業。中国語と国語の教職免許を持ち、翻訳者・通訳者・中国語講師として幅広く活躍。自宅で中国語教室を開いているほか、ボランティアとしても多方面で活動している。守山市在住。

劉穎さんのホームページ<http://www.kjps.net/user/liuying/>

日本、そして滋賀県に来られた経緯をお話いただけますか。

祖母は中国の残留日本人孤児でしたが、日中国交回復のあと何年かたって、日本に帰国することができました。それから家族の呼び寄せという形で、親戚が順番に日本に来たんです。私の家族が最後でした。

そのときはやはり戸惑いがある、特に母の方が反対していました。日本に慣れるかどうか自信がなかったんですね。両親はよく話し合っていたと思いますが、小さい私と妹はほとんど何も知らずに突然「日本へ行こう」と言われました。

おばあさんからは日本のことについてよくお話を聞いておられたんですか。

そうですね。彼女はとても難しい時代に中国で生きていました。敗戦後に新しい中国ができて、平和な時も何年かあったんですが、文化大革命が起こると資本主義に反対する闘争があって、スパイ扱いされたり、家の物を持って行かれたり投獄されたりと、大変な経験をしました。私は祖母が日本語を使ったのを一度も聞いたことがなかったのですが、最初に接した日本人であり、祖母のことをとても不思議な雰囲気だと思っていた。周りのおばあさんとは少し違っていました。宮沢賢治の童話を中国語でしてくれたり、厚焼き卵をとてもおいしく作ってくれたり、私にとってはそれが何よりも面白く、また世界一の味でした。

5年前に亡くなりましたが、もっと祖母の話を聞きたかったと、それがとても残念ですね。

滋賀県に来られたきっかけは？

夫の仕事の関係です。その前は千葉にいました。今は栗東で仕事をしています。偶然ですが、祖母の生まれは野洲だったんです。亡くなる前に祖母に話をしたら、「守山は知っているよ。その勝部神社に遊びに行ったことがある」と言っていました。その神社は自宅のすぐ近くです。家族の中で、私を一番理解してくれる祖母でしたので、今も近くにいるような気がします。

滋賀に来て最初、妊娠、出産で辛い時期だったんですが、琵琶湖はハルビンを流れる松花江という川と雰囲気が似ていて、眺めていると懐かしい気持ちになるんです。そして、ここもいいなあという感情が芽生えてきました。

来日当初、友達は出来ましたか。

学校の女の子たちはとても親切にしてくれたのですが、日本語が分からないので、何を話しているのかとても敏感になっていました。性格もあると思います。外国人でもすぐ慣れる子どももいれば、私のように内気な子どももいる。もうちょっと積極性があれば仲良くなれたらと思うんですが、この前、私のホームページを見た中学の同級生がメールをくださって、いろいろ話すようになりました。中学生の頃から通訳・翻訳家になりたいと言っていたのを覚えて「良かったね」と言ってくれました。だから、その頃は孤独だと思っていたけど本当はそうじゃなくて、もうちょっと積極性を持ってみんなと接していれば、仲良くなれたんだなと思いました。

通訳・翻訳家を目指されたきっかけは何ですか？

子どもの頃にテレビのニュースで通訳者の仕事を見ました。ひかえめな存在だけれど、とても重要な役割をしておられるのを見て、私もそんな重要な仕事がしたいと思いましたし、自分の性格に合っていると思いました。

日本語の翻訳では、おもしろさや難しさはどんなところですか。

難しいところが一番楽しいと今は思います。日本語も日本文化もとても誇り高いものを持っていると思います。私は不器用で才能がなくて、20年たってもうまくならない。特に発音が悪いんですが、簡単に近づけないところに魅力を感じます。また、文法の使い方もあと2、30年たっても完璧に使えないくらい難しいですね。これは、文化にも共通しています。例えば私たち外国人が日本文化に興味を持って着物の着付けやお花、お茶を習いに行くことがあります。私もお花を長い間勉強していて、師範の免許も持っていますが、簡単に習得できない奥深さがあります。何年たっても、わび・さびなど感性で理解するところが、難しいですね。

翻訳を通してボランティア活動をされているようですが、そのきっかけは？

日本での子育ては、とても孤独でした。中国では、家事も育児も夫と妻が協力してします。子供が生まれても仕事を辞めることはありません。しかし、日本では、夫は残業で家事や子育てはほと

んど出来ず、母親だけが一人、育児で悩みます。子どもと二人きりの孤独な育児に悩んで、相談に行ったカウンセラーの先生のアドバイスが私の力になりました。どこへ相談していいか分からない人へいろいろな情報を提供するのが仕事の一部だとおっしゃっていたのです。

そして、さまざまな人との出会いがあり、滋賀県国際協会の外国人向け情報紙「みみタロウ」のボランティアを始めることになりました。中国語の翻訳を担当しています。最近は、守山市の広報でも市民リポーターとしてお手伝いしています。

これから先の目標や夢は？

翻訳は一人のできる仕事ですが、それだけでは成長しないということがわかってきました。人と交わってはじめて得られる情報が大事なんです。それから、活動の場を探して、いろいろなところへ出るようになりました。仕事のメインはビジネス関係ですが、もっと言語の助けを求めている人がいるんじゃないかと思っています。ですから、翻訳の仕事は一生続けていこうと思っていますが、それだけではなく、今まで多くの方々の影響や助けを受けて、今の私がいるのですから、今度は立場の弱い人々のために働きたい。国際社会に役立つ人間や日中友好の架け橋になれるように頑張ります。

最後に、滋賀県に住んでいる人へメッセージをお願いします。

もう少し身近な外国人のことに興味を持ってほしいと思います。滋賀県の方はとても穏やかだと思いますが、情報不足だったり、外国人と身近に日常的に親しく付き合うことが少ないと思うので、抵抗を感じているのではないのでしょうか。だから良さを保ちながら、外国に向けて視野を広げて、身近な外国人ともっと交流をしてほしいですね。交流の場を積極的に生かしていったらいいと思うんです。今、韓流ブームですけれども、こんなふうにもっといろんな国に目を向けるようになったらいいと思います。

また、外国人の方にも言いたいことですが失敗をおそれず、自分たちの主張を話し合っていくのも大切だと思います。地域の住民や行政と交渉していくこと。その勇気が必要ですね。行政を動かすためには、有権者の方の力が必要なので、まず選挙権を認めてほしいですね。少なくとも、在住・永住外国人、税金をちゃんと払っている外国人に与えてほしい。これは日本社会をより暮らしやすく、差別的ない国際社会にしていきたい。新しい意見を取り入れるチャンスにもなると思います。



「在日外国人の人権」や「国際理解」などをテーマに、学校等で講演をしています。写真は守山小学校で「中国の子供達」を紹介した時の教材・教具です。